

9ちゃんだより

『大宮九条の会』発行

2010年8月31日 no.21

8月15日 の

“ウォッチング「平和の塔」(八紘一宇の塔)。”



に 100 名が参加

今年(2010年)は広島・長崎への原爆投下、敗戦から65年目。塔建立から丁度70年の節目に当たります。恒例となりました8月15日「ウォッチング平和の塔」も今年で20回目を迎えました。この行事は2度と戦争をしないため侵略戦争の負の遺跡としての八紘一宇の塔を研究している「平和の塔の史実を考える会」の主催で開催されてきました。憲法九条を守り活かして日本と世界平和をめざし、こつこつと運動している「大宮九条の会」は、主に活動しているエリアに塔を抱えていることもあり、平和をめざす行事の成功のために協賛してきています。



この日は朝から猛暑の中、参加者はお盆で忙しい時間を割いて午前10時には平和台公園の広場に集合しました。

今年(2010年)は平和を考える面で色々と上記以外にも節目の年に当たります。韓国併合100年(1910年)、同じ年に「大逆事件」。日米安保条約改定50年(1960年)。などなど……。戦争と平和への関心も高まった中での開催となり、今回は例年の倍の参加者がありました。初めての参加という人が46名と、多かったのも関心の高さを示しています。小中学生も10名を越す参加がありました。

公園管理の県土木事務所は「当日は日曜日で職員がいないから塔の内部は公開できない」と言っていたのですが、「史実を考える会」の野崎眞公会長の「平和を祈念すべき8月15日の塔研究恒例行事で多くの県民が期待している」との粘り強い要請に、塔の

扉を開いてくれました。感謝感謝です。

参加者は初めての参加グループ、小中学生など20数名ずつの班に分かれて、それぞれの班に「考える会」からベテランガイドさんが付いてもらい、詳しい説明を受けました。「この礎石は何処から持ってきたのか」「塔が建立された70年前の時代背景」など、中国や韓国の現地に行って確認したガイドさんの説明には、みなさん「そうだったのですか」と感心の様子。「大宮九条の会」の杉尾哲哉世話人代表も猛暑の、ボランティアガイドで奮闘されました。



↑中国からの石を説明する杉尾さん

した。今後はこの事実や歴史を広く知らせていく必要があると考えます。名称は『八紘一字の塔』と正確に称すべきです。その中で塔が果たした役割を県民や観光客に伝えていくべきだと考えます。」(50代男性)、小学生10才の頃、宮崎博覧会に来た時、叔母がこの台地に連れて来てくれたと思います。朝鮮併合と同じで大本営が何もかも指導していたことをテレビで見て、日本国のやることがいかにごまかしであったか分かります。」(80才代)などの感想がありました。

以上

◎お願い・・・八紘一字の塔（「平和の塔」）
に関する資料とか、「私は建設工事に係わった事がある」、「塔の『八紘一字』の文字を取り外すのを目撃した」などお知らせいただくと助かります。



↑これから塔内部の見学です

講演『日韓併合』100年あたり 日本支配下の朝鮮の民衆

9月11日(土) 午前10時～宮崎市総合体育館大会議室(宮崎駅東1丁目2-3)で南九州大学の章大寧(ザン デヨン)先生の講演『日韓併合』100年あたり日本支配下の朝鮮の民衆が行われます。

宮崎市革新懇が主催し、「大宮九条の会」など8団体が協賛して開催されます。周りのみなさんもお誘い合わせのうえご参加ください。終了は12時30分の予定です。